

# 快適生活支援ホームロボット

企業 / ダイコク電機（株）

研究者 / 末松良一（名古屋大学教授）

急速に進む高齢化社会における高齢独居者あるいは、単身赴任者や少人数家庭生活者が、いかに充実した喜びある生活を営むことができるようにするかは、重要な課題である。

本事業は、コンピュータや通信技術の高度技術を駆使して、一般消費者を対象とした快適生活支援ロボットのモデル化を目指したものである。ここでいう「快適生活支援」とは、介護など福祉厚生の支援を意味するのではなく、生活の中の生き甲斐、潤い、充実感などヒューマンウェルネスの促進を意味する。提案したホームロボットは、人間生活の中で常時稼働し、生活に潤いと安らぎを与えるエンターテインメントと同時に、主人と居住環境のセキュリティの向上、家庭外社会とのコミュニケーションの促進を担う実用的側面も兼ね備えている。また、背中に液晶パネルを備え、主人の見やすい位置へ自律移動し、情報を提供すると共に、家庭内のホストコンピュータを介して、ロボット派遣会社にも接続され、緊急時対応も可能な構成をとっている。すなわち、高度情報通信社会における家庭内のヒューマンフレンドリーな「動くコンピュータ端末機」としての役割も果たす機能を有している。

また、本ホームロボットは、日本古来のからくり人形の技法を反映し、単純な構造でありながら、さまざまな表現や運動を実現できることも特徴の1つである。広く社会に受け入れるためには、小型化やデザインなどにまだ課題は残るが、ホームロボットのあるべき姿の1つとして具体的な形で提案することができた。



試作ホームロボット